VALUES
OF
RENOVATION

3

ワンルームを緩やかに仕切る大きな造作家具

K Residence Shinagawa-ku, Tokyo

Architecture : 矢板建築設計研究所
Photographs : Nacása & Partners Text : Tetsuya Shiono

リビング(CH2500㎜)に飾られた「花」の書は、オーナーの作品。書を貼ったパネル(W1080㎜×H1680㎜)は設計した矢板久明さんがデザインし、生成りの和紙を貼って仕立てた。正面の千本格子の引き戸(W1150㎜×H2150㎜×t43㎜)は、左手の収納の開き戸と同じデザインにし、閉めると格子が一体化して壁面のように見える仕掛け。ホワイエの天井高とリビングの折り上げ天井下端の高さをそろえ、連続性をもたせるなど美しく納めている。リビングの照明は折り上げ天井にテープライトを仕込み、夜は和紙貼りの天井にバウンドした柔らかな間接光が空間を包み込む

東京・品川に立つタワーマンションの24階にあるK邸。ここはオーナーが友人と集うためのセカンドハウスだ。エントランスの右手南側は、幅900㎜だった廊下を1150㎜に広げて、ゲストをゆったりとしたスペースで迎えるホワイエ(CH2150㎜)に。右手のミラー扉のワードローブ(W2000㎜×D650㎜×H2100㎜)はシューズクローゼットを兼ねて造作したもの。ミラーは空間を広く見せるほか、姿見としても活躍する。左手の和室と廊下は壁で仕切られていたが建具を新設し、開け放てば空間を広く感じられるようにした。正面の千本格子の引き込み戸は南洋材のニヤトー材製で、乳白のアクリル板を挟んでいるため、閉めてもエントランスまで陽光がまわり込む

オフィスやホテルといった高層ビルが立ち並ぶ東京・品川。タワーマンションの24階にあるK邸は、南側の大開口に面したワンルームのリビング&キッチンから眼下に東京湾や羽田空港を望め、桜の頃は目黒川の花筏も満喫できる。陽光が注ぐ明るい空間で移ろう景色を眺めながら、思い思いの時を過ごせる住まいだ。

オーナーは2007年にこの部屋を購入したものの、本宅を別に構えていたため、'17年まで息子夫婦と孫が暮らしていた。しかし彼らの転居に伴い、友人と気軽に集えるセカンドハウスとして活用したいと考え、リノベーションすることに。床面積約80㎡の既存のプランは、北側のエントランスを入った正面に水まわり、南に向かう廊下の両脇にトイレと和室、突き当たり南側にリビング&ダイニングキッチンが配され、その両脇に二つの個室が設けられていた。住まい全体が細かく仕切られていた間取りは、友人を招き、時に単身で過ごすライフスタイルにはフィットしない。そこでオーナーは、知人が経営する施工会社を介して建築家の矢板久明さんと矢板直子さんに出会い、リノベーションを依頼した。要望は、個室をなくして人が集うゲストハウスという、極めてシンプルなもの。久明さんは、「マンションも戸建ても空間をつくる観点は同じ。マンションの場合、床全体を戸建ての敷地のように考える」と、直子さんと共に一般的な3LDKの間取りを払拭し、スケルトンにして開放的な新しい空間をイメージした。

まず、南側に広がる見晴らしの良い眺めと自然光をふんだんに取り込むべく、リビング&ダイニングキッチンと二つの個室を隔てていた壁を取り払い、開口が連なった矩形のワンルームを配置。空間のほぼ中央には"ジャイアントファニチャー"と称する南北約2.7m×東西約2.9mの造作家具を設け、この家具の南側にキッチンカウンターを収め、東側にベッドとエアコン、北側にウオークイン・クローゼット、西側にテレビとエアコンを収納して機能を集約。各面の機能を居室に適応させ、造作家具の南側は通路を兼ねたキッチン、東側はコンパクトな寝室、西側をリビングに。造作家具をコアとしたワン

下／もともと個室とリビング&ダイニングキッチンが配されていた南側は、壁を取り払ってワンルームに。左手南側の開口から眼下に東京湾や品川の街並みが広がる。ソファはイタリア・B&B Italiaの「BEND」で、さまざまな方向から座ることができ、最大で20人のゲストが過ごしたことも。テーブルは同ブランドの「AWA」と「FRANK」で、座る位置に合わせて移動できるコンパクトなものを選んだ。開口にはドレープとレースカーテンをしつらえ、住まいに柔らかさをプラス。土佐和紙の天井は温かみを与え、主に1600㎜×730㎜の和紙の縁を重ねて格子のパターン貼りに仕上げた

左頁上／ワンルームには"ジャイアントファニチャー"（W2920㎜×D2750㎜×H2150㎜）と称する家具を造作。あえて天井との間にスペースを設け、ワンルームとしてのつながりを創出した。4面それぞれに機能をもち、リビング側はTVボードやエアコン、食器の収納に。面材は3㎜の溝を付けた框組のデザインで、溝の底にも突き板を貼り、溝の側面は下地のMDFのままにすることで溝をシャープに見せている　左頁下／チーク無垢材を使用した取っ手は、ビスや釘を使わない蟻組み接ぎに。造作家具から取っ手に至るまで矢板さんがデザインし、ニシザキ工芸が製作

右頁／造作家具の南側は通路を兼ねたキッチン（CH2150〜2500㎜）で、クチーナのオーダーキッチンカウンター（W2000㎜×D650㎜×H850㎜）を収納。造作家具との納まりは、白いキッチンパネルの約5㎜の小口にチーク材突き板を貼って見切りとすることで、密接に見せている。キッチンの通路幅は約1mとゆとりのある寸法を確保。床は、エントランスからワンルームまで石灰岩のジュラストーン貼りとし、イエローベージュの色が柔らかさを添える。奥はリビング

右／ベッドスペースの一角に配した特注デスクは、天板はチーク材で脚部はステンレスを組み合わせた。イスはB&B Italiaの「VOL AU VENT」

ルームのプランは、ミース・ファン・デル・ローエのファンズワース邸からヒントを得たもので、空間を緩やかに区切りつつ、回遊動線も生み出した。

さらに、ボリュームのある造作家具が空間に圧迫感を与えないよう、見せ方を工夫。高さは天井高より350㎜低い約2.1mとし、あえて天井との間にスペースを設け、空間を分断しないことで抜け感を演出している。また、リビング側と寝室側に収めたエアコンは室外機への配管ルートが必要になるが、配管を露出することなく家具内を通し、キッチンの換気ダクトと共に天井裏につなげて、インテリア性に配慮した。

加えて、エントランスからリビングまでの廊下の脇に配されていたトイレを、洗面室や浴室のある北側に移設。その際、給排水管の新設や勾配の確保が求められるが、K邸はもともと二重床で、床下に高さ300㎜の懐が設けられていたことから規定の勾配をクリア。パイプスペースとの距離もさほど変化なく、比較的容易に移設することができた。トイレだった場所にはミラー扉のワードローブを造作し、廊下の幅を900㎜から1150㎜に拡張。エントランスからリビングへ向かう動線上にワードローブを設けることで、ゲストを招くための機能を高めている。

この住まいの魅力の一つは、上質な素材使いとディテールにこだわった洗練のインテリア。床や幅木、窓枠の敷居に石灰岩のジュラストーンを用い、壁は漆喰、天井は土佐和紙で仕上げ、素材の硬軟を上手く組み合わせた。硬質な石灰岩はイエローベージュのジュラストーンを選ぶことで、空間に温かみを与えている。また、チーク材突き板で造作したジャイアントファニチャーは、幅3㎜の溝を設けた框（かまち）組のデザインを採用。溝の底にも同材を貼り、取っ手の接着はビスを使わずチーク無垢材を蟻組み接ぎにするなど、材料の選定だけでなく、継ぎ目などのディテールにも美学を見出している。

「セカンドハウスのつもりだったが、居心地の良さからここで過ごす時間が長くなった」とKさん。時に20人のゲストが集うこともあり、K邸ではこれからも豊かな時が流れるだろう。

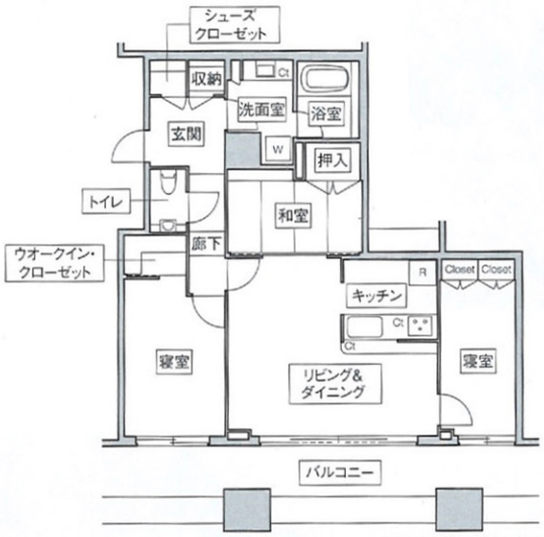
左／リビングからホワイエ、エントランスまでを見る。右手の4畳ほどの和室（CH2085㎜）は既存と同じ位置だが、床の間のスペースを広げて畳など仕上げ材を一新。開放的なK邸のなかで、ここだけは引き戸を閉めてプライバシーを確保できる空間。「息子夫婦や孫、友人が来たときは、泊まれるように」とKさん　下／ゲストの宿泊を想定し、押入れには布団を収納。奥行き230㎜と浅い床の間は、スギ板を立てて床柱に見立てた。壁は薩摩黒土の撫切り仕上げで、腰壁は東京松屋の漆紙貼り。障子は、両面に同社の障子紙を太鼓張りにするなど、茶室のように仕上げている。実際に茶道家を招いて茶会を開いたり、接待で茶をたてることも。18㎜ピッチの繊細な格子の中にはエアコンをビルトイン

右／造作家具の北側には、約2.7㎡のウオークイン・クローゼットを設けた。内部につながる左手の扉は、手前東側にあるベッドスペースのすぐ近くにあるため身支度が整えやすい。ほかにも和室やリビングといった場所に収納スペースを多く設け、物が散らからないようにしている。正面はリビング、右手は和室　下／東側の寝室はセミオープンだが、造作家具により西側のリビングから見えない。ベッドを組み合わせて門型にデザインすることで、キャノピーに包まれたような感覚をもたせている。門型の上部には読書用の間接照明を設置し、ベッド両脇にはナイトテーブルを造作。矢板さんは、大きな造作家具のフレームを厚くする一方、ナイトテーブルといった小ぶりの造作家具は天板などの厚みを薄く見せるなど、空間に与える家具のバランスを考慮してデザインした

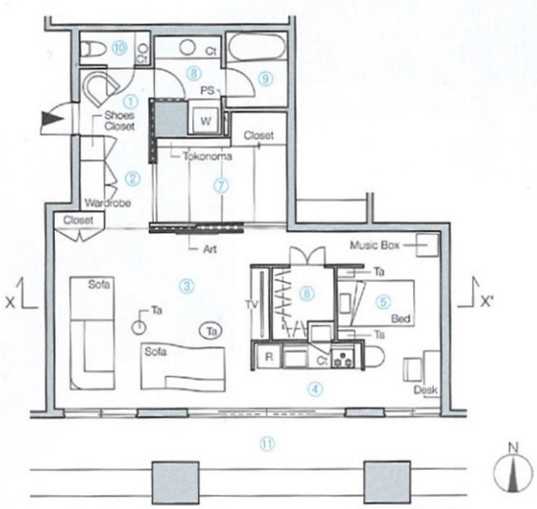
DATA

構造と規模／RC造　マンションの一室
床面積／80.78㎡
家族構成／オーナー

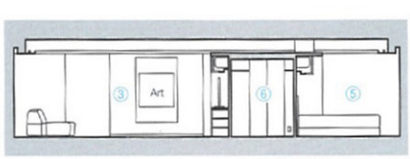
※設計データは211頁に掲載



BEFORE PLAN 1 : 200



1F PLAN 1 : 200



X-X' SECTION 1 : 200

洗面カウンター（W1750㎜×D590㎜×H720㎜）は、チーク無垢材の一枚板で造作。前面の壁にはカウンターと同じ幅のジュラストーンを貼り、上部にミラー扉のメディスンボックスを取り付けて、カウンター下はオープンに。向かい側にはルーバー式の引き戸を設け、洗濯機を隠せるようにしている。右手奥が浴室

①ENTRANCE
②FOYER
③LIVING
④KITCHEN
⑤BEDROOM
⑥WALK-IN CLOSET
⑦JAPANESE-STYLE ROOM
⑧POWDER ROOM
⑨BATHROOM
⑩TOILET
⑪BALCONY